

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 8 号:2009 年 11 - 2010 年 1 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済発展実績

ウズベキスタンの 2009 年 1～9 月期における外国貿易高は前年同期比で 2.3%減少し、160 億 1,400 万ドルであった。9 ヶ月間の輸出額は 5.4%減少し 91 億 7,400 万ドルに減少したが、輸入額は 2.2%増の 68 億 4,000 万ドルとなった。貿易収支は 23 億 3,400 万ドルの黒字であった（前年同期は 44 億 6,300 万ドルの黒字）。

ウズベキスタンの主要貿易相手国はロシア（同時期の貿易高の 19.1%を占めた）、スイス（12%）、中国（9.8%）、ウクライナ（7%）、カザフスタン（6%）、韓国（5.3%）、アフガニスタン（3.2%）である。

2009 年 1～9 月期のウズベキスタンの主要輸出品目はエネルギー担体が輸出額の 39.3%（前年同期は 21.1%）、綿繊維 7.3%（10%）、サービス 8.4%（9.1%）、鉄鋼・非鉄金属 4.5%（7.2%）、機械設備 2.5%（7.8%）、食品 4.5%（3.9%）であった。

主要輸入品目はこれまで同様、機械設備が輸入額の 57.5%（昨年同期は 50.3%）、化学製品とプラスチック 10.9%（12.4%）、一般消費物資 13.6%（13.1%）、鉄鋼・非鉄金属 7.9%（6.2%）、サービス 4.5%（4.1%）であった。

ウズベク政府が内閣に 3 つの情報分析局と法的鑑定局および国際条約局を設置する決定を採択

ウズベキスタン内閣に以下 3 つの情報分析局が設置された。1.マクロ経済発展・経済構造改革・地域総合開発問題担当総括情報分析局、2.対外経済活動・外国投資誘致・生産ローカル化問題担当情報分析局、3.教育・保健・社会擁護問題担当情報分析局。

内閣の機構改革は、投資プログラムの大幅の拡大に伴って、並びに 2010 年に開始される社会分野（第 1 に教育と保健）における改革の新段階に伴って生じた政府の制度的改善の必要性に基づく。

二者関係

アジア開発銀行がウズベキスタンに 3 州の飲用水供給改善プロジェクト実施のため 6,000 万ドルの借款を提供

この借款はアジア開発銀行（ADB）のアジア開発基金から支出されたもので、数次にわたり資金供給が行われるこの総額 3 億ドルの ADB 投資案件の第 1 回トランシェである。2009 年 9 月に ADB はウズベキスタンに国内農村地帯の飲料水供給改善プログラム実施のために総額 3 億ドルを融資する決定を行った。1995 年以来、ADB はウズベキスタンに対して教育、農業、交通インフラ近代化、エネルギーセクターなどの分野の 29 案件実施のために総額 12 億 3,000 万ドルのローンと技術支援無償援助 4,550 万ドルを供与した。

投資政策

ウズベキスタンは 2009～11 年に国際金融・経済機関と援助供与国から無償援助資金 4 億 2,670 万ドルの導入を計画

これらの資金は社会経済の発展に関わる優先案件の実施に充てられる予定。2009 年末までに 21 案件の実施に技術支援無償援助 6,770 万ドルの誘致が計画されていたが、2010～11 年には 176 案件実施に 3 億 5,900 万ドルの無償援助導入が計画されている。

最も多くの無償援助資金の導入が計画されているのは保健部門である（1 億 2,200 万ドル）。飲料水供給・衛生インフラ改善案件に 6,380 万ドル、農業、水利、林業発展のための案件と土地改良案件に 6,270 万ドルの導入が予定されている。エコロジー改善・環境保全案件に 1,810 万ドル、代替エネルギー源導入と省エネの案件に 1,390 万ドルが必要だ。

ウズベキスタンは 2009～14 年に電力産業発展のために総額 35 億ドルの投資を誘致する予定

ウズベキスタンの電力産業部門では 2014 年までに総額 35 億ドルの資金を誘致して 38 の投資案件を実施することが予定されている。発電部門では合計出力 2,700MW オーダーの発電施設の稼働開始を保障する 24 案件の実施が見込まれている。その内訳は火力発電が 8 案件で合計 2,255MW の施設を稼働させる。水力発電は 15 案件で合計 440MW の施設を稼働させる。送電関係では 12 案件が予定されており、延長 1,400km 超の送電線を開通させ、合計容量 1,754 メガボルトアンペアの変電施設を稼働させる。

銀行協会で「金融インフラを強化し、広範な住民層・小ビジネス向け融資の利用性を向上させるためのプロジェクト」の発足式(2009 年 12 月 3 日)

この企画は「中央アジアとアゼルバイジャンにおける金融インフラ強化」プロジェクト（ACAFI）の一部である。総費用 240 万ドルで 3 年間で予定するこの地域プロジェクトは、スイス経済省経済管轄局（SECO）の資金提供により実施されている。このプロジェクトの目的は、信用情報交換のための法規基盤の改善、金融仲介者およびク

レジット機関の潜在力向上、リスク管理分野の教育および資格認定プログラムの発展である。本プロジェクトの枠内でウズベキスタンでは、信用情報交換とクレジット機関にかかわる法規の改善に関して国家セクターと民間セクターを対象にした活動が実施される。プロジェクトに参加する金融機関は、信用情報交換の分野における活動ポリシーと実務の改善で支援を受ける。ウズベキスタンでのプロジェクトの実施は国際金融公社（IFC）が担当する。

18兆2,000億スム(120億ドル)超の国内投資を予定するウズベキスタンの「2010年度投資プログラム」を承認

投資総額のうち、外資（政府保証を受ける融資と直接外国投資および融資）の割合は、26%になる（99の投資案件、合計費用約30億ドル）。「2010年度投資プログラム」に含まれる案件の大部分は、最重要工業部門の固定ファンド更新に向けられたものである。2010年に実施される新施設の設置、既存施設の近代化・改修にかかわる大規模投資案件の一覧表には、192の案件が含まれている。最も多額の外国投資（26案件、合計22億8,000万ドル）が計画されているのは燃料・エネルギーセクターである。このうち、22の案件（合計費用20億4,500万ドル）が外国企業の直接投資によって実施される。

エネルギーセクター

ウズベキスタンと「ルクオイル」(ロシア)が南西ギッサル地区のガスコンデンセート鉱床開発(PS案件)の準備作業を加速

ウズベキスタン政府は11月6日、OOO「ルクオイル・ウズベキスタン・オペレーティング・カンパニー」(ウズベキスタンにおける「ルクオイル」オペレーター)に対し、ガスコンデンセート鉱床「アダムタシ」、「グンブラク」、「ジャルクドゥク ヤンギ・キジルチャ」開発にかかわる設計と設計図書の作成、さらにこれらの作業と並行して現地で開発施設を建設することを許可した。この措置により、これらの鉱床での開発施設の建設を大幅に速めることが可能になり、2010年後半にも施設を稼働させることができよう。

国家持ち株会社「ウズベクネフチェガス」とHoneywell International社が相互協力拡大についての覚書に調印

両社は協力の方向としてまず手始めに、生産自動化分野のスタッフ養成にかかわる共同プログラムを検討することを決めた。

ドイツの RWE Power AG が国営株式会社「ウズベクエネルギー」から温室効果ガス排出枠を購入予定

「クリーン発展メカニズム」(CDM) プロジェクト担当の国家機関である経済省によると、RWE Power 社は「ウズベクエネルギー」のタシケント火力発電所近代化の枠による CDM コンポーネントにかかわるパートナー選定の競争入札で排出枠購入の権利を取得した。

ウズベク側は認証排出削減量 (CER) の売却による資金をタシケント火力発電所の改修費の一部に充当する計画である。タシケント火力発電所の近代化費用は 4 億 6,350 万ドル。この近代化事業は設計管理を含め、ターンキー方式による出力 370MW のガス複合発電プラントの建設を予定している。発電所のおおよその改修期間は 48 ヶ月。

プロジェクトの資金は、日本の国際協力銀行(JBIC)からの融資 2 億 7,440 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金からの融資 7,620 万ドル、「ウズベクエネルギー」の自己資金 7,690 万ドル、ウズベクの銀行からの融資 3,600 万ドルで行われる。